

中村欣一郎市長の

山椒は小粒でも...



Vol.46

ファクスやめました！



「ファクスやめましたー」といっても、市役所のファクスではありません。自宅のファクスを使うのをやめることにしました。以前はしよちゅう使っていたと思うのですが、いつから活躍しなくなったのでしょうか。はたと考えてみると最近は私から送信することはまずなく、月に数回受信するかどうかです。相手先も分かっているのです。こちらから説明して、以後はラインなどのSNSを使って連絡を取り合うようにしました。もうこれで「インクフィルムラコウカンシテクダサイ」という冷たい機械音にイライラしなくて良いと思うとスッキリしました。



スマホの普及で、固定電話も役割を終えつつあります

ファクスの正式名はファクシミリ。語源はラテン語の「smiliter」、「同じものを作れ」、「忠実にコピーせよ」といった意味から来ているそうです。まさに通信線の向こう側に同じものを作るのです。一方で、原稿そのものが通信回線を通じて相手先に届くものだと思うている人も少なからずいて、機械にセットした原稿が消えてなくなるのを、ずーっとファクスの前で待っていた、という笑い話を聞いたことがあります。が、ウンのようで本当にあったエピソードだと思います。絶対的な権威があったハンコが見直され、河野大臣の口から「次はファクスかな」と発言されるに至っては、この次には何が役目を終えるのかと、思わず周囲を見回してしまいうような時代の変遷の速さです。通信話題でもうひとつ。今ではほとんど見かけなくなった公衆電話です。携帯やスマホの普及を考えれば当然の

結果なのでしょうが、ここ10年で約半分になつていそうです。みなさんの日常のどこにある緑色の電話機があるか思い浮かびますか？最後に使ったのはいつですか？携帯や固定電話は災害時には制限が掛かることがあります。公衆電話は停電時にも使えますし、最も優先されます。私は今でも財布にテレホンカードを入れていきます。また災害救助法が適用されるような規模の災害が発生した場合などは公衆電話からの通話は無料になることもあるそうです。7月には熱海市で大規模な土砂災害が発生しましたが、まだ雨が降りやすい時期が続きます。最近の子どもは公衆電話を使ったことがないかもしれないので、いざという時に備えて設置されている場所や使い方を共有しておくのも大事なことです。ね。



最近めっきり見かけなくなった電話ボックス(旧安楽島保育所前)



公衆電話設置場所検索サイト



Vol.206
市民課人権・市民交流係
☎ 1126

『伝えていく』

今年には戦後76年に当たります。戦争体験者およびその関係者などの高齢化が進む中、彼らの記憶と記録を次の世代へバトンタッチしなければなりません。

第一次世界大戦および第二次世界大戦による戦死者や事故、病気など数多くの戦争犠牲者を出したことに由来する反省を基に、戦争を二度と起こさないという広島市の被爆教師たちの強い決意から、広島平和教育研究所が設置されました。当研究所は、日本国憲法と教育基本法(1947年制定)の理念を実現することを目的としており、設立をきっかけに、日本平和教育研究協議会、平和教育分科会など『平和教育』の体制が次第に整えられていきました。

戦後76年が経った今、戦争体験者から直接的に継承する平和教育は過渡期にあり、新たな学習方法の提案を模索する必要があります。と、危惧する声もあります。

わたしたちの多くが「戦争を体験したことのない世代」になりつつある中で、戦争がもたらした「痛み、怖さ」などは、76年前に起きた事実として、目を背けることはできません。五感で感じたままを残し伝えていくことが大切であり、次の世代へ受け渡してこそ平和教育の本質が生まれ、その強い意志を学び受け継ぐことが今後のわたしたちに課せられた使命ではないでしょうか。

現在、後期高齢者以上になるかたを戦争体験第1世代(第1世代)としたとき、第1世代が減少する中で、戦後生まれの戦争体験第2世代から第3世代、そして第4世代へと転換してきました。平和教育を受けるわたしたちは、異なる立場を理解すると共に、彼らの貴重な「体験」と「平和への想い」を後世に伝えるなければなりません。

